

過日発表された12月日銀短観における、大企業・中小企業別の最近の景況感を不動産業も含めて確認しておこう。概況は以下の表のとおりである。

	大企業				中小企業			
	最近		先行き		最近		先行き	
	DI	変化	DI	変化	DI	変化	DI	変化
全産業	14	2	13	▲1	2	2	▲3	▲5
製造業	10	4	8	▲2	1	4	▲4	▲5
非製造業	18	0	16	▲2	2	1	▲2	▲4
不動産業	33	▲2	27	▲6	13	5	7	▲6

(注) 1. 日本銀行「短期経済観測」(2016年12月)をもとに作成。DIは「良い」－「悪い」の差。

2. 「最近」の「変化」は前回(2016.9)DIからの変化を示す。

3. 「先行き」の「変化」は「最近のDI」－「先行きのDI」を示す。

(最近の業況判断)

大企業の最近の業況判断は、製造業は10%ptと前回から4%pt改善し、非製造業の18も前回から横ばいであり、全産業では14%ptと前回から2%pt改善し、総じて改善の動きが続いている。

中小企業は、DIの水準自体は低いが、製造業、非製造業、全産業とも今回はプラスであり、いずれも改善が進んだ。

製造業では秋口以降の円安が業況判断にプラスの影響をもたらした可能性があり、非製造業では内需の停滞が改善幅に歯止めをかけている面があると見られる。

こうした中で大企業の不動産業のDIは33%ptと高い業況判断が続いているが、前回に比べ、2%pt低下した。マンション販売戸数や契約率の低下を反映している可能性がある。他方、中小企業の不動産業の業況は5%pt改善して13となった。地方部で基調の強い貸家建設の好調さを反映しているのではないかとと思われる。

(先行き(3か月後)の業況判断)

大企業の先行きの業況判断を見ると、製造業が8%pt、非製造業が16%ptでありいずれも、前回から1%pt～2%pt悪化しており、米国におけるトランプ政権への政権交代を含め、先行きに対してやや慎重な姿勢が示されているものと考えられる。中小企業では、製造業、非製造業とも「悪い」が「良い」を上回り、悪化幅も5%ptに達した。内外の金融情勢、為替レート、賃金、人手不足等経営環境の不透明感を反映しているのではないかとみられる。

こうした中で、不動産業は大企業、中小企業とも前回に比べ 6%pt 悪化しているものの、他産業に比べ依然景況感は良好であり、高い DI 指数を維持しているため、短期のうちに業況が悪化する恐れは低いとみられる。

(価格判断 DI)

ここで、今回の短観から今後の価格動向に与える影響の大きい大企業の製造業、非製造業別の販売価格 DI と仕入れ価格 DI の動向を見ておこう。

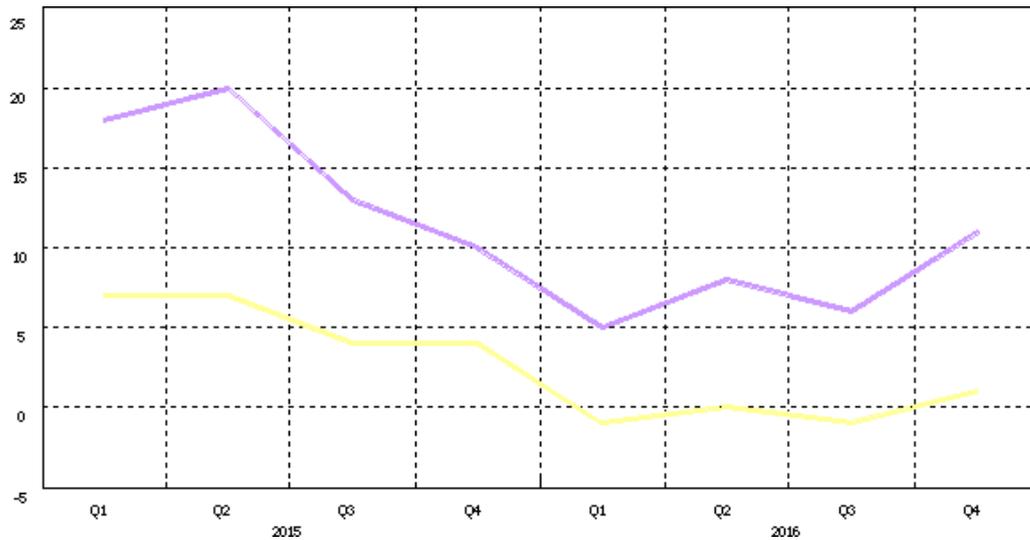
まず、製造業では、販売価格 DI と仕入れ価格 DI は、いずれも上昇超の回答が増加している。これは、原油価格の上昇や円安の進行が仕入れ価格、販売価格を共に押し上げる方向に作用したことを示唆している。非製造業では仕入価格 DI は原材料価格の上昇の転嫁により DI も上昇基調であるが、販売価格 DI は最終購買力の弱さを反映して DI も横ばいである。

次に、仕入れ価格と販売価格のそれぞれについて DI の変化を見ると、製造業でも、非製造業でもともに、仕入れ価格 DI が、販売価格 DI の DI を上回り、しかも仕入れ価格 DI の上げ幅が相対的に大きいことから、販売価格 DI から仕入れ価格 DI を引いた収益条件は製造業でも、非製造業でもいずれも、全体として、悪化する方向にあると考えられ、今後利益に対してマイナスに作用する可能性があることに留意すべきであろう。

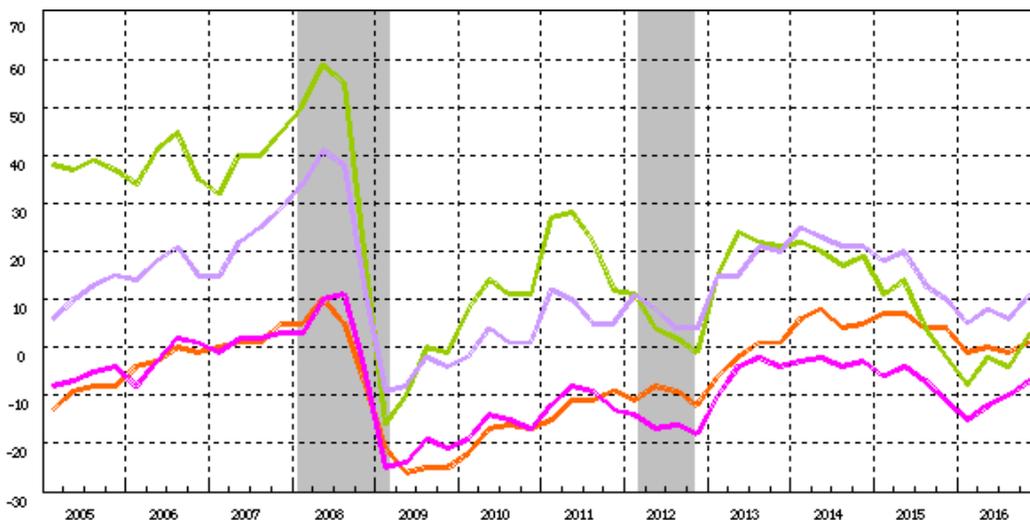
(図表) 製造業 (大企業) 販売価格 DI と仕入れ価格 DI (短期)



(図表) 非製造業（大企業）販売価格DIと仕入価格DI（短期）



(図表、製造業、非製造業（大企業）の販売価格DI、仕入価格DI（長期）

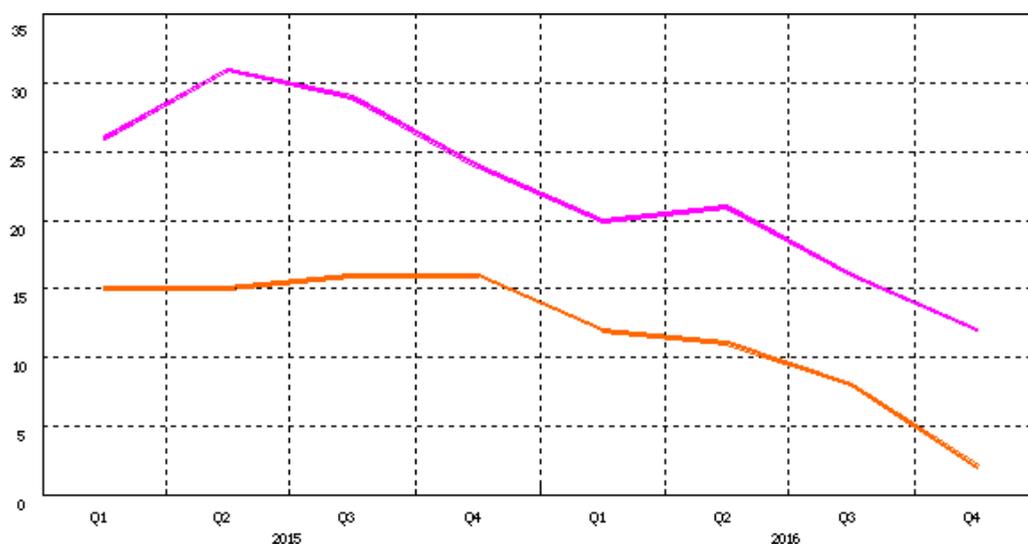


(注) 日銀短観により作成。赤＝製造業販売価格DI、橙＝非製造業販売価格DI、緑＝製造業仕入れ価格DI、紫＝非製造業仕入れ価格DI。

(不動産業（大企業）の販売価格DIと仕入価格DI)

最後に、不動産業（大企業）の販売価格上昇DIは2015年をピークに低下し、最近時はほぼゼロ近くにまで低下した。一方仕入価格DIもほぼ販売価格DIに並行して低下しているが、引き続きプラスの水準であり、仕入れ価格が上昇していると判断している企業が多い。大手不動産会社の事業環境は、需要サイドでは、所得の伸び悩みや先行きが不透明な設備投資の動向、供給サイドでは各種のコストアップ要因があり、価格構造の面から見ると厳しさを増しており、収益構造は悪化の方向にあると言えよう。

(図表) 不動産業（大企業）の販売価格DIと仕入価格DI（短期）



(図表、不動産業（大企業）の販売価格DI、仕入価格DI（長期）



(注) 日銀短観により作成。紫＝不動産業（大企業）の販売価格 DI、緑＝不動産業（大企業）の仕入価格 DI。

(荒井 俊行)